

## 第7回震災復興ボランティアに参加して

福島県南相馬市(10月25日～10月26日)

この度、JTBグループで働く皆さんと共に福島県南相馬市を訪ね、震災復興支援ボランティアに参加しました。

活動の内容は南相馬市ボランティアセンター長の指示により、津波による瓦礫や泥で埋まった側溝の復旧にあたりました。神吉リーダー指示のもと、草を刈る人、土を掘り上げる人、掘りあげた土を均す人と、役割分担し作業を行いました。参加者にとって普段行わない慣れない作業でしたが、安全を第一に考え、復旧に向け心を一つにして取り組み、心地よい汗を流しました。

### ボランティアセンター長の言葉

津波により大切な人や多くのものを失った人々は「苦しみ」が積み重なり、やがて希望を失う。人は希望がなければ生きられない。

震災から1年8か月が経過し、この場所で起こったことの実況が人々の記憶から薄れ始めようとしている。「今さら何ができるのか」という人もいるように。

しかしやるべきことはまだまだある。ここに集まったボランティアの役割は、被災地の人々に積み重なった「苦」を少しでも抜き取り、人々から希望が失われぬよう活動を継続すること。まだまだ時間がかかる。どうか無理せず気負わず、仲間と協力し、楽しんで活動を行ってほしい。

### 「できる人が、できる時に、できる事をする」

南相馬市ボランティアセンターの合言葉であるこの言葉について考えました。被災地から遠く離れた私たちに今何ができるのか……。

被災地を訪れ、その場所に立ち、復興に向け精いっぱい汗を流すことも一つかもしれませぬ。その他にできる事とは……。それはたとえ遠く離れた場所でも、そこで一生懸命働き、会社、家族、地域社会に対する役割を誠実に果たすこと、そして3月11日を振り返り、希望を絶やさずことなく日本を元気にする気持ちを持ち続ける事なのかもしれませぬ。

最後に、人は自然の力に到底かなわない事を実感しました。比較的地震の多いこの国で暮らすには、地震と向き合い受け入れることで、常に防災意識を持つことが必要であると感じております。また、最も大事なことは人と人との繋がりを持ち続ける事、絶やさぬことだと感じました。

平成24年11月15日

中国ターミナルサービス労働組合

山本 靖士

